

教育目標：よく考え 進んで学ぶ子 自分も友だちも大切にする子
正しく判断し 行動できる子 体を鍛え 最後までやりぬく子



学校だより

高松

令和6年11月1日 発行

立川市立第五小学校

校長 関口 保司

〒190-0011

立川市高松町1丁目12番25号

TEL 042-523-5238~9

042-523-5230 (こだま学級)

FAX 042-529-0854

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es05/>



過程を大切に

～運動会を通して～



副校長 上野 徹

先月の19日(土)に予定通り実施できた運動会。当日、参観者の皆様から温かい拍手や声援を、そして運営に関するご協力をいただいたこと、心より感謝申し上げます。おそらく、当日のお子さんの活躍については、各ご家庭で声をかけていただいたことと思います。今号では、運動会に至るまでの過程に目を向けて、いくつか紹介させていただきます。

【練習風景から】

各学年で運動会に向けた練習が始まったのは9月の下旬でした。高温が続いたと思えば雨で校庭が使えなくなる繰り返して、練習期間の中盤までは体育館で表現運動の動きや技を覚えることに専念しました。どの学年も校庭のトラックいっぱい広がっての通し練習を見ることができたのは、本番まで約1週間というところでした。他学年の表現練習を見て応援する子どもたちの姿が、とても印象的でした。

また、こだま学級の徒競走の練習に参加すると、一人一人が全力でゴールを駆け抜けることができるように子どもたちは練習から力を尽くし、大人は本番を想定しながらあらゆる工夫を重ねて実施していました。

【スローガン作り、カウントダウン掲示、てるてる坊主】

「限界突破～一致団結し、最輝(さいこう)な運動会にしよう!～」今年の運動会で掲げられたこのスローガンは、各学級から寄せられた言葉を集約して作られたものです。そして校内各所には運動会が近づく度にめくられていくカウントダウン掲示や、本番直前には体育館校庭側の扉に全学級の願いを込めたてるてる坊主が貼り出されました。

いずれも、全校の児童や教員の想い、そして、代表委員会の児童のアイデアが詰まった作品です。おかげで、運動会に向けて学校全体が徐々に熱を帯びるようでした。

【校庭の吸水大作戦】

薄茶色のスポンジに大きなプラスチック製のたらい。これらは、昨年校庭に大きくできる水たまりを少しでも早くに改善するための吸水作業に使用する道具です。喜ぶべきことではありませんが、今年もこれらの道具が当日の朝まで大活躍しました。ただ、昨年と違うのは、スポンジとたらいを子どもたちが自主的に使って吸水作業をしてくれたところです。最初は8時前から6年生や5年生が次々に水たまりを集まって黙々と作業を始め、翌週には4年生も登校で着てきた服を泥に汚しながら素早く水を吸い取ってくれました。この作業に救われた練習が何時間あったことか。運動会の成功を予感しました。

全校で行う学校行事には、当日の興奮や成功、達成感などだけではなく、それまでの過程にも大きな価値があります。コロナ禍を経て形を変えながらもなお、毎年運動会を実施する理由がそこにあります。当日のことを思い返すと、子どもたちと教職員一人一人の思いや願いが通じたかのような晴天の下、おかげさまで予定通り実施することができました。この2年間で「児童数が増えるなか狭くなった校庭で行う運動会」には一定のめどがついたと感じています。

そして、次は音楽会。子どもたちは1学期からこつこつと練習を重ね、本番まで残り4週間となって気持ちも高まっているところです。当日ご鑑賞の際は、運動会に負けない拍手をいただけたらと思います。